

退職者連絡会

第61号
(発行・編集)
JR九州労組
退職者連絡会
鹿児島地区本部

安心福祉社会と県議選必勝等を決定

鹿児島県退職者連合定期総会開催される

一月二十七日、鹿児島県退職者団体連合第二九回定期総会が鹿児島県九州労働金庫本店大ホールで開催されました。

コロナ禍、総会には各加盟産別組織の代議員、役員、来賓ら七二名が出席。当連絡会からも県退連役員、代議員五名が出席しました。

総会議長に吉原代議員（農林水産省県退職者の会）を選出。

まず幹事会を代表して、二牟礼正博会長（自治労退）が挨拶「岸田政権は、国会で議論が無いまま武力行使三要件文書を閣議決定しました。五年間で四三兆円を投じ、軍事費の増税

と社会保障の削減で賄うとしている。一番の問題は敵基地攻撃3要件文書の曖昧な説明しかしてないことです。四月県議選が施行されますが、極めて危険な岸田内閣に歯止めをか



けるためにも県議選は重要な闘いとなります。平和と民主主義を守るために、県連合の推薦候補の必勝に向けて現退一致で頑張ろう」と強く

訴えられました。来賓として、満永県連合会長代行（自治労）をはじめ、野間健衆議員の芳香夫人が連帯と激励の挨拶「野間議員は国会開催中のためメッセージの代読」そのあと難波経治事務局長（労金退職者会）が二〇二二年度経過報告を行い、引き続き決算報告、会計監査報告のあと承認。二〇二三年度活動方針案及び予算案が提起され、若干の質疑応答後、満場一致で承認されました。

役員改選では、一部役員の変更がありました。ほぼ現行役員が選任されました。二牟礼正博会長の鹿児島県議選必勝の力強い団結頑張ろうで閉会となりました。

去る一月二十七日、恒例の新春講演会が県退連定期総会の前段に開催され、各退連組織から七〇名が出席しました。今回も講師に平井一臣先生（鹿児島大学教授）を迎え、「問われる民主主義の力ー民主主義の再興のためにー」を題目に講演を受けました。【要旨】「今年で自民党結党から六八年、そのうち六三年間が自民党政権。対外の共産党一党支配体制以外では、極めて珍しい体制と言える。自安倍政権後期の森・加計、桜を見る会等々かつての自民党であれば派閥抗争に火が付き首相が変わっていただろう。官邸指導と付度政治の影響力が拡大した。また、政治の世襲化が進み、二〇〇〇年代の首相

一〇名（森、小泉、安倍、福田、麻生、鳩山、菅、野田、菅、岸田）この内六名が父親も代議士である。自民党議員の約四割が世襲議員と言われる。政界の新陳代謝の低下は否めない。国会軽視の慢性化が顕著で、安倍元内閣による集団的自衛権の閣議決定や岸内閣の安倍元首相の国葬、年末の安保関連三文書の改正などは戦後防衛政策の大転換（敵基地攻撃能力）。軍拡のための増税、原発政策の大転換である。中国脅威論、北朝鮮脅威論を利用した軍事力の拡大にアクセルを踏む岸田政権の暴走に、民衆の力でブレーキを駆けないはならない。かつてないほど重要な今年の統一地方選挙に勝利し、軍事暴走に歯止めをかけよう」と力説されました。

防衛費四三兆円による大増税、四閣僚の辞任等で首相の支持率は急落。ロシアのウクライナへの軍事侵攻等により輸入品を始め電気・ガス、食品等の物価高騰は止まらない。暮らしは益々疲弊し厳しくなる一方である。日本がS議長国の年は政変が起きている。広島サミット後、衆院解散も…。総選挙の前哨戦と位置付け、来るべき県議選を現退一致で勝ち取ろう。

【お知らせ】
交通共済から
こくみん共済への移転契約手続
※移転申込書兼解約届
※預金口座振替依頼書
※住まいる共済(火災・自然災害等)
【2023年3月31日必着〇移転日7/1
●問い合わせ⇒0120-155-233

編集後記